

自院の役割と健全経営を目指して －変える変わる佐賀病院－

円城寺昭人[†]

第78回国立病院総合医学会

2024年10月18日 於 大阪

IRYO Vol. 79 No. 3 (148–152) 2025

要旨

地域に求められる持続可能な地域医療提供体制を確保するためにも健全経営は最も重要な課題である。急性期病院として生き残るためには地域における自院の役割を認識したうえで患者確保に繋げなければならない。

国立病院機構佐賀病院（当院）はコロナ禍前、病床利用率は徐々に低下し2015、2016年度は経常収支赤字に転落した。そこで救急車搬送件数2,000件/年を目標に掲げ救急受け入れ体制の整備、救急隊との連携を強化し患者数を確保した。しかしコロナ禍、コロナ病床の設置により一般病床確保が逼迫したため早期の退院転院を促し、過度に平均在院日数を短縮する結果となった。行き過ぎた在院日数の短縮はコロナ空床補償の終了後には経営を圧迫した。入院患者数を全職員で常に意識し看護部で入退院を一元的に管理し新入院患者数に応じ、病状に則した適切な在院日数のコントロールを行い経営改善に繋げた。さらに2024年の診療報酬改定では新設された地域包括医療病棟を導入し高齢者救急医療に舵を切った。高齢者救急医療は赤ちゃんからお年寄りまで患者さんにやさしい病院を基本理念とする地域に求められる当院の役割として目指す姿であろう。

キーワード 健全経営, 高齢者救急医療, 地域包括医療病棟

はじめに

団塊の世代が75歳以上となる2025年度を目途に「急性期」のベッドを減らすため2019年に厚生労働省は全国424公的病院について「再編統合の議論が必要」と病院名を公表した。コロナ禍を挟みコロナ禍以降患者の受療行動は変化した2024年の診療報酬改定においては物価高騰、人件費増と費用の増加に見合う改定がなされず医療機関の経営に大きな影響が出たまま2025年を迎えた。このように急性期病

院には厳しい環境の中、地域に求められる病院として生き残るためには自院の役割を認識し健全経営に努める必要がある。

佐賀病院の概要

国立病院機構佐賀病院（当院）は佐賀中部医療圏において佐賀県唯一の総合周産期母子医療センターを有する急性期2次救急病院であり地域医療支援病院の指定を受けている。少子化の影響により利用率

国立病院機構佐賀病院 外科・乳腺外科 [†]医師
著者連絡先：円城寺昭人 国立病院機構佐賀病院 院長
〒849-8577 佐賀県佐賀市日の出1丁目20-1

e-mail: enjoji.akihito.wn@mail.hosp.go.jp

(2025年1月13日受付 2025年4月18日受理)

Ensuring the Role and Sustainable Management of Our Hospital: NHO Saga Hospital: Innovate and Evolve

Akihito Enjoji NHO Saga Hospital

(Received Jan. 13, 2025, Accepted Apr. 18, 2025)

Key Words: sustainable management, senior emergency care, community comprehensive medical ward